

資料12 ボーリング柱状図

今回の調査ボーリングは計4箇所(No. 1~4)で実施した(図4-3-1参照)。また巻末資料に「ボーリング柱状図及びコア写真」を添付した。

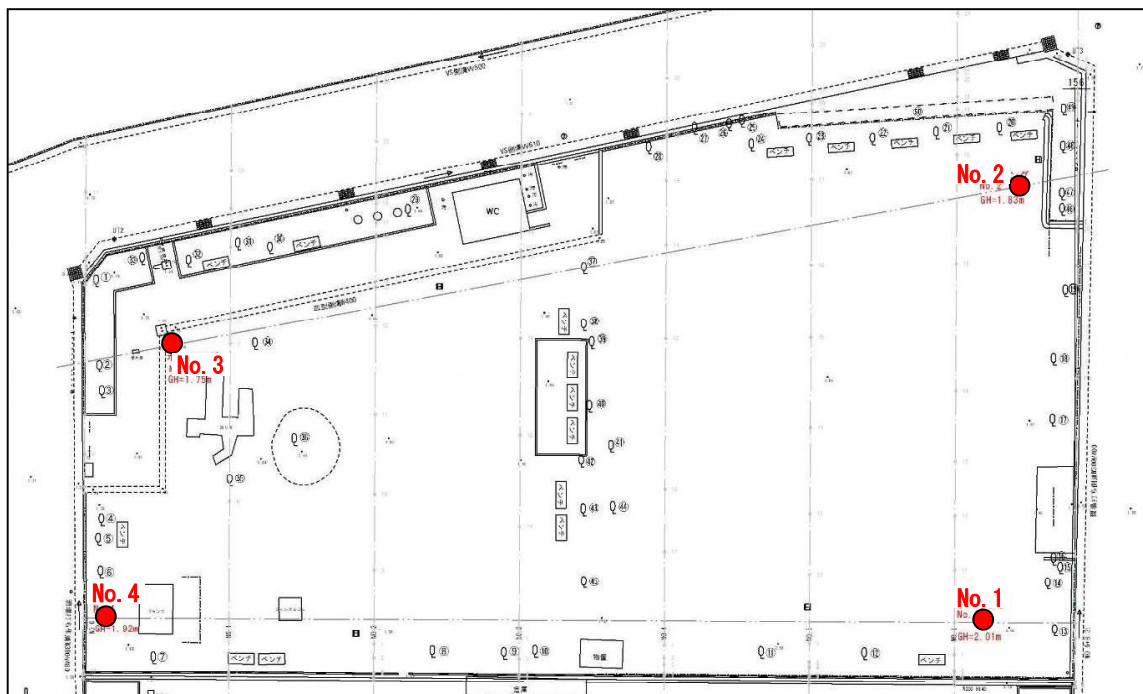


図4-3-1 ボーリング調査位置図

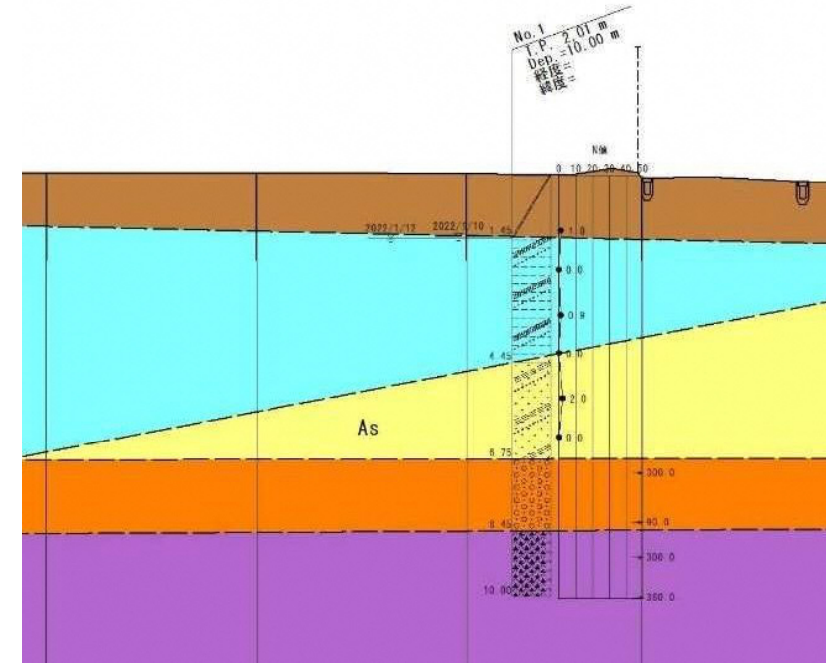
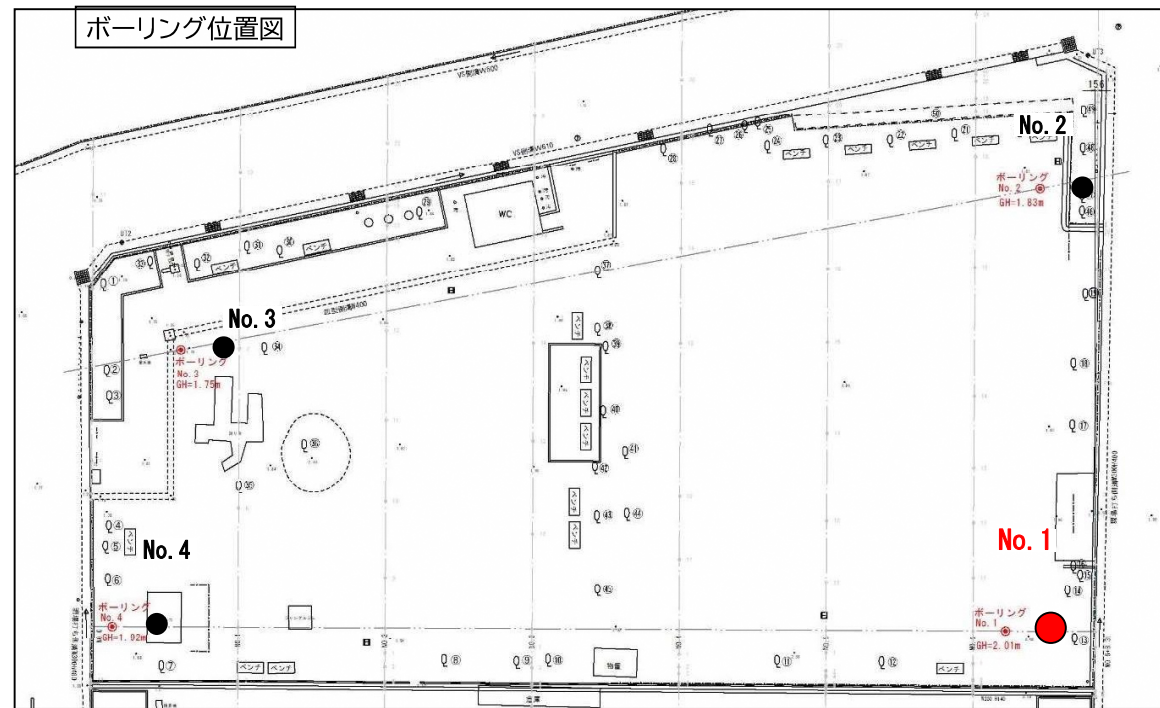
表4-3-1に示すように、ボーリングコア観察の結果、分布が確認された地層は基盤を成す凝灰角礫岩(Tb)及び風化凝灰角礫岩(wTb)とその上位を被覆する沖積層3層(粘性土:Ac、砂質土:As、玉石土:Ag)及び盛土(B)の計6層であり、各層の確認層厚は下表のとおりである。

表4-3-1 層厚及び掘削長一覧

孔 番	層 厚 (m)						計
	盛土 (B)	沖積層			風化 凝灰角礫岩 (wTb)	凝灰角礫岩 (Tb)	
		粘性土 (Ac)	砂質土 (As)	玉石土 (Ag)			
No. 1	1.45	3.00	2.30	1.70	-	1.55	10.00
No. 2	1.70	-	4.30	2.55	1.00	2.45	12.00
No. 3	1.00	5.70	-	1.69	-	1.61	10.00
No. 4	0.70	6.02	-	1.81	-	1.47	10.00
計	4.85	14.72	6.60	7.75	1.00	7.08	42.00

表 4-3-2 各層の地質・土質一覧表

各地層名称		地質・土質状況	代表コア写真
沖積層	盛土 (B)	<p>本層は No. 1~4 の全孔で分布が確認された。</p> <p>礫混じり砂で、中~粗砂が主体を成す。φ0.5~5cm の安山岩やレンガ片等の雑多な角礫を約 30% 含む。表層に植物根が混入する機会が多い。含水は低く、固結度は低い。</p> <p>層厚は 0.70m~1.70m で、層厚の変化がやや大きい。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 2、深度 0.50~1.00m]</p>
	粘性土 (Ac)	<p>本層は No. 1、No. 3、No. 4 の 3 孔で分布が確認された。</p> <p>極めて軟質な礫まじり砂質シルトで、含水も高い。シルトを含む細粒分が約 50~60%、細~中砂から成る砂分が約 30~40%、φ0.5~10cm の亜円礫~亜角礫分から成る礫分が約 10% を占める。また貝殻片が全体に混入する。</p> <p>層厚は No. 1 で 3.00m、No. 3 で 5.70m、No. 4 で 6.02m を示し、敷地南側 (No. 3~No. 4) で層厚が厚い。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 1、深度 2.50~3.00m]</p>
	砂質土 (As)	<p>本層は No. 1、No. 2 の 2 孔で分布が確認された。</p> <p>含水の高い礫混じりシルト質砂で、固結度が低く締りが緩い。細~中砂から成る砂分が約 40~50%、シルトを含む細粒分が約 30~40%、φ0.5~3cm の安山岩の亜円礫~亜角礫が約 20% を占める。また貝殻細片が多く混入する。</p> <p>層厚は No. 1 で 2.30m、No. 2 で 4.30m を示し、比較的層厚の変化が大きい。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 1、深度 4.50~5.00m]</p>
	玉石土 (Ag)	<p>本層は No. 1~4 の全孔で分布が確認された。</p> <p>最大 φ13cm の硬質安山岩の玉石が主体で、玉石間を φ0.5~8cm の硬質安山岩亜円礫~亜角礫と中~粗砂が充填する。玉石が約 50%、礫分が約 30%、砂分が約 20% を占める。固結度は中位~高い。</p> <p>層厚は 1.69m~2.55m を示し、粘性土 (Ac) や砂質土 (As) に比べて層厚が薄い。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 1、深度 7.10~7.60m]</p>
基盤岩	風化凝灰角礫岩 (wTb)	<p>本層は No. 2 のみで分布が確認された。</p> <p>主に短棒状コアを呈し、局部的に角礫状コアを示す。ハンマー打撃で鈍い金属音を発する~割れ易い。褐色風化が進行し、やや軟質。節理面は少ないが面の褐色化が目立つ。</p> <p>層厚は 1.00m で、風化した部分が局所的かつ薄いことを示す。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 2、深度 8.50~9.00m]</p>
	凝灰角礫岩 (Tb)	<p>本層は No. 1~4 の全孔で分布が確認された。</p> <p>全体に短棒状~棒状コアを呈する。褐色化が認められるが、概ね硬質でハンマー打撃で金属音~鈍い金属音を発する。節理面は比較的少なく、面の褐色化や部分的な褐色粘土薄層の挟みが認められる。</p> <p>確認層厚は 1.47~2.45m である。</p>	<p>[ボーリングコア性状の例： No. 2、深度 11.50~12.00m]</p>



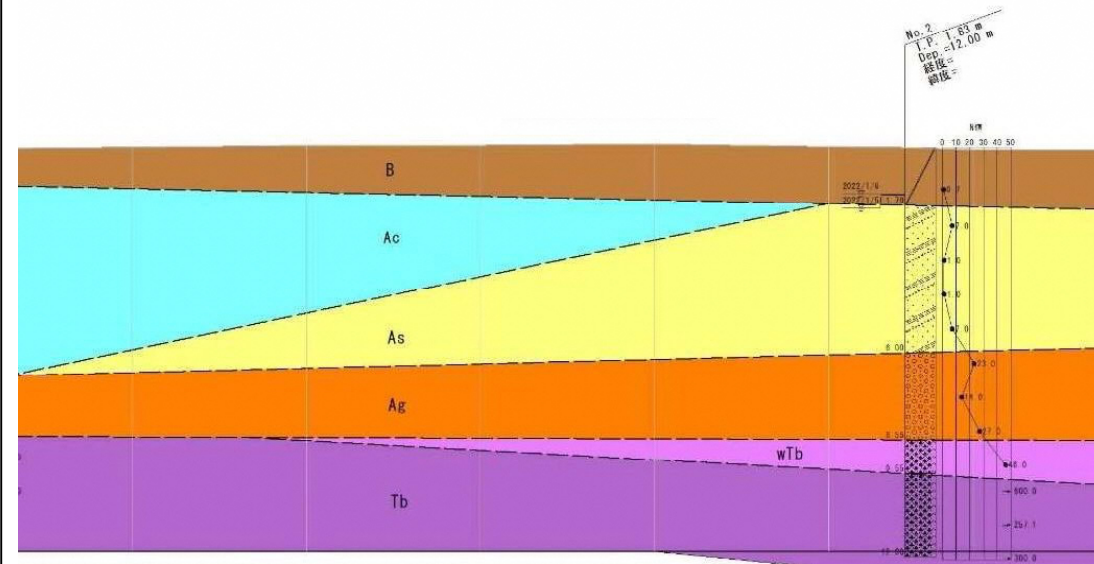
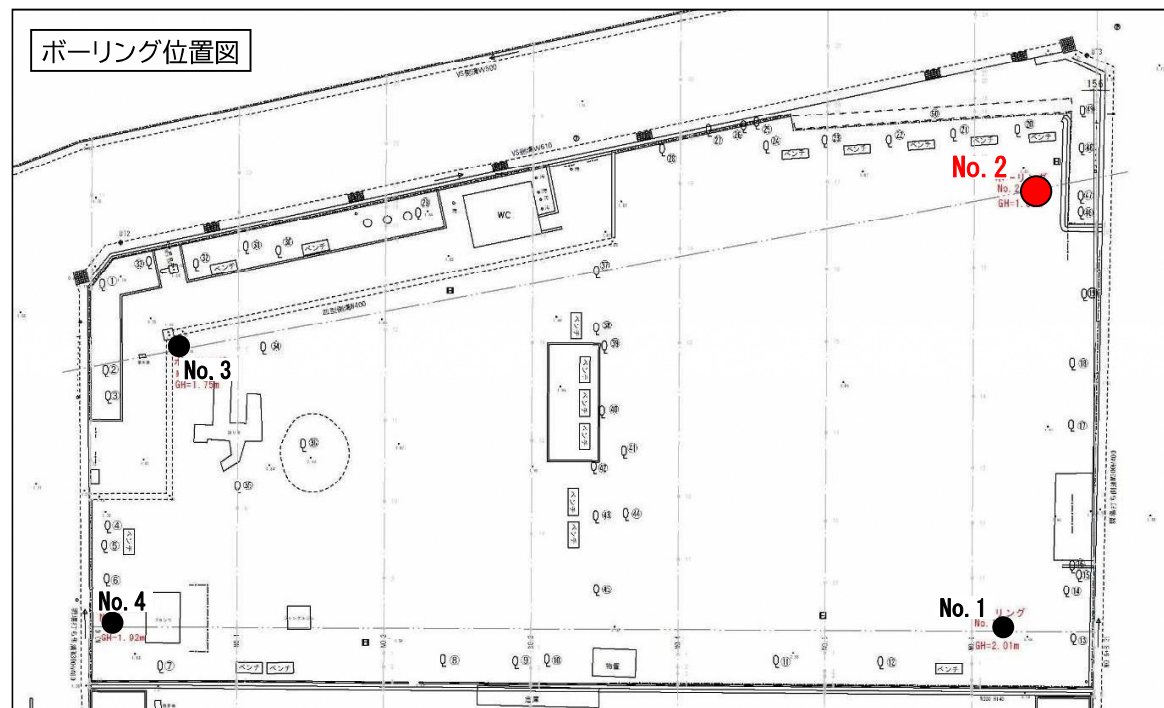
凡例

- : 盛土 (B)
- : 沖積粘性土 (Ac)
- : 沖積砂質土 (As)
- : 沖積玉石土 (Ag)
- : 風化凝灰角礫岩 (wTb)
- : 凝灰角礫岩 (Tb)

層番号	深度 (m)	土質記号	土質名称	説明	試験結果 (吹下)
1	0.56 ~ 1.45	B	盛土	礫まじり砂。中～粗砂が主体で、径0.5～2cmの安山岩、レンガ片等の雑多な角礫が約30%を含む。含水低く、固結度低い。深度0.10m以浅は植物根が混入。	1.15 1.45 300 0 0 300
2	1.45 ~ 2.00	Ac	礫まじり砂質シルト	シルト分が約60%、細～中砂が約30%、径0.5～10cmの亜円礫～亜角礫が約10%を占める。全体に軟質で、径0.2～1cmの貝殻片を少量含む。含水は中位～高く、固結度は低い。	ハンマー自沈 0
3	2.00 ~ 2.45	As	礫まじりシルト質砂	細～粗砂が約50%、シルト分が約30%、径0.5～3cmの主に安山岩の亜角礫～亜円礫が約20%を占める。含水中位～高く、固結度は低い。全体に径0.2～3cmの貝殻片を多く含む。深度5.50m以深は礫分の割合が比較的高い。	3.15 3.50 350 0 0 350
4	2.45 ~ 4.45	Ag	玉石土	最大径12cmの玉石を含む径1～8cmの亜円礫～亜角礫が約40%、中～粗砂が約60%を占める。玉石と礫は硬質な安山岩で、ハンマー打撃で金属音を発する。砂分から成るマトリックスの固結度は高い。	ハンマー自沈 0
5	4.45 ~ 5.15	As	礫まじりシルト質砂	同上	4.45 5.15 1 1 0 2
6	5.15 ~ 6.00	Ac	礫まじり砂質シルト	同上	6.45 6.00 200 0 0 300
7	6.00 ~ 6.45	Ac	礫まじり砂質シルト	同上	ハンマー自沈 0
8	6.45 ~ 7.05	Ag	玉石土	同上	6.45 7.05 60 0 0 60
9	7.05 ~ 7.11	Ag	玉石土	同上	7.11 60 0 0 60
10	7.11 ~ 8.15	Ac	礫まじり砂質シルト	同上	8.15 34 26 0 60
11	8.15 ~ 8.35	Ac	礫まじり砂質シルト	同上	8.35 0 0 200
12	8.35 ~ 9.05	Ac	礫まじり砂質シルト	同上	9.05 60 0 0 60
13	9.05 ~ 9.11	Ac	礫まじり砂質シルト	同上	9.11 60 0 0 60
14	9.11 ~ 10.00	Tb	凝灰角礫岩	短棒状～棒状コアを早する。全体に褐色化が認められ、特に深度8.80m以浅では節理面沿いに軟質化。径2～5cmの角礫部と礫間を充填するマトリックス部は概ね同等の硬さを有し、ハンマー打撃で鈍い金属音を発する。節理面は少ない。	10.00 60 0 0 60
15	10.00 ~ 10.05	Tb	凝灰角礫岩	同上	10.05 50 0 0 50



図 4-3-2 ボーリング柱状図～コア写真の対比 : No. 1



凡例

- : 盛土 (B)
- : 沖積粘性土 (Ac)
- : 沖積砂質土 (As)
- : 沖積玉石土 (Ag)
- : 風化凝灰角礫岩 (wTb)
- : 凝灰角礫岩 (Tb)

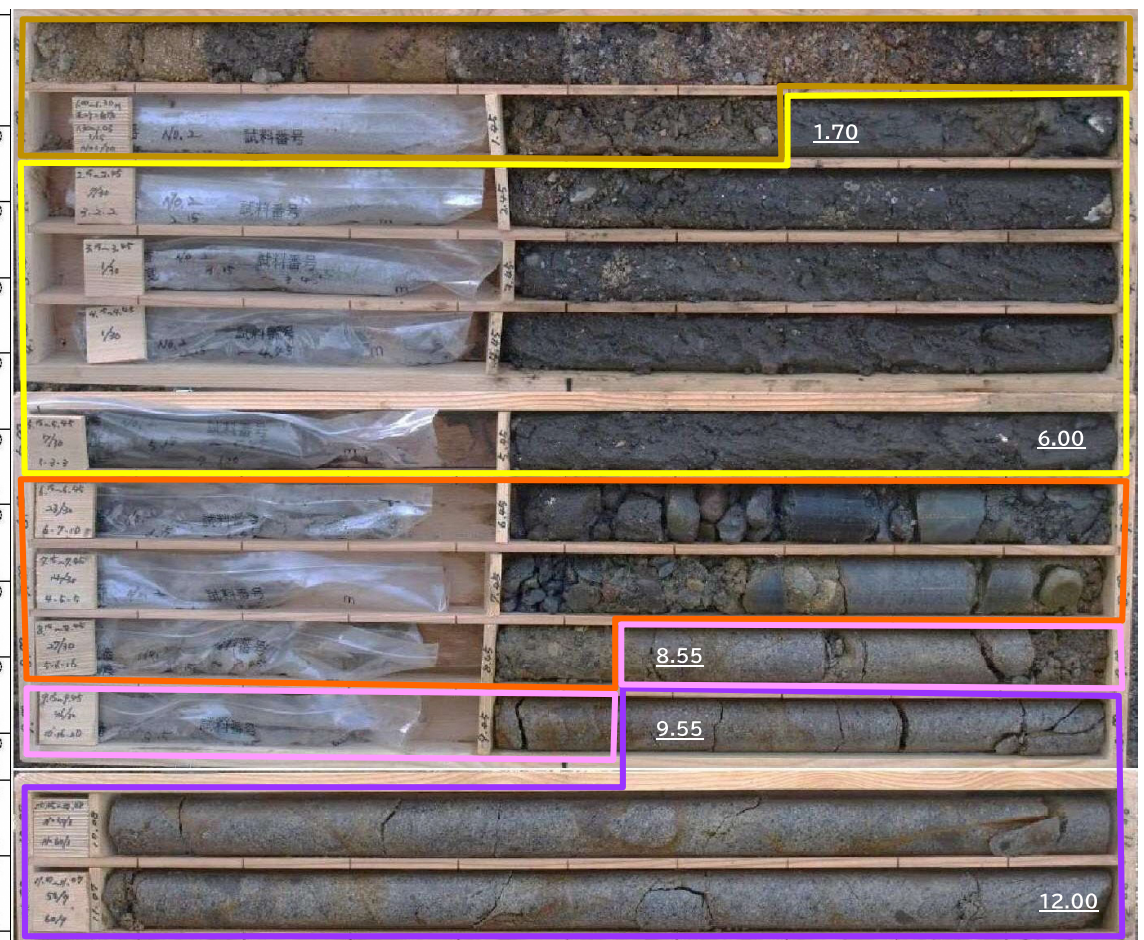
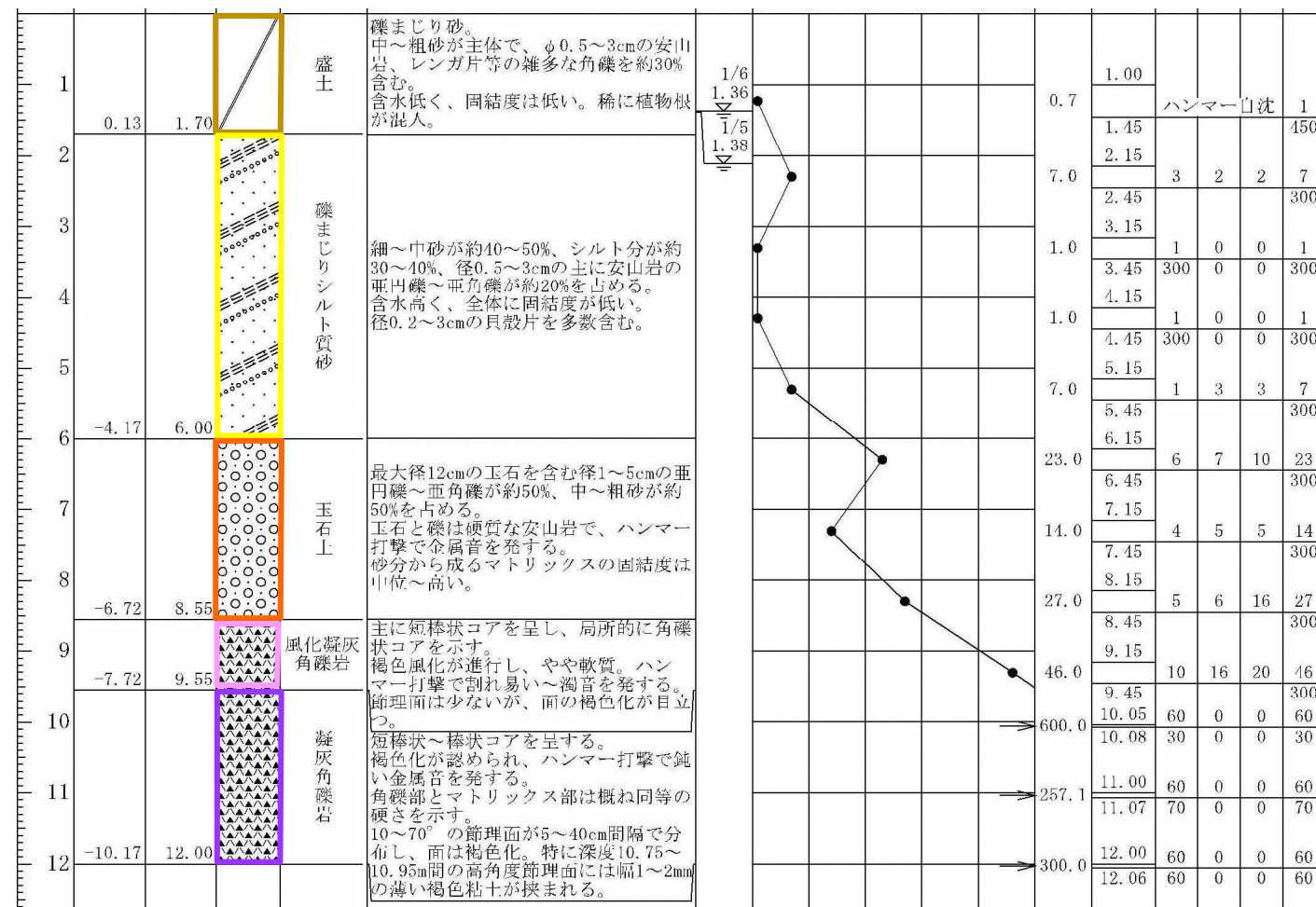


図4-3-3 ボーリング柱状図～コア写真の対比 : No. 2

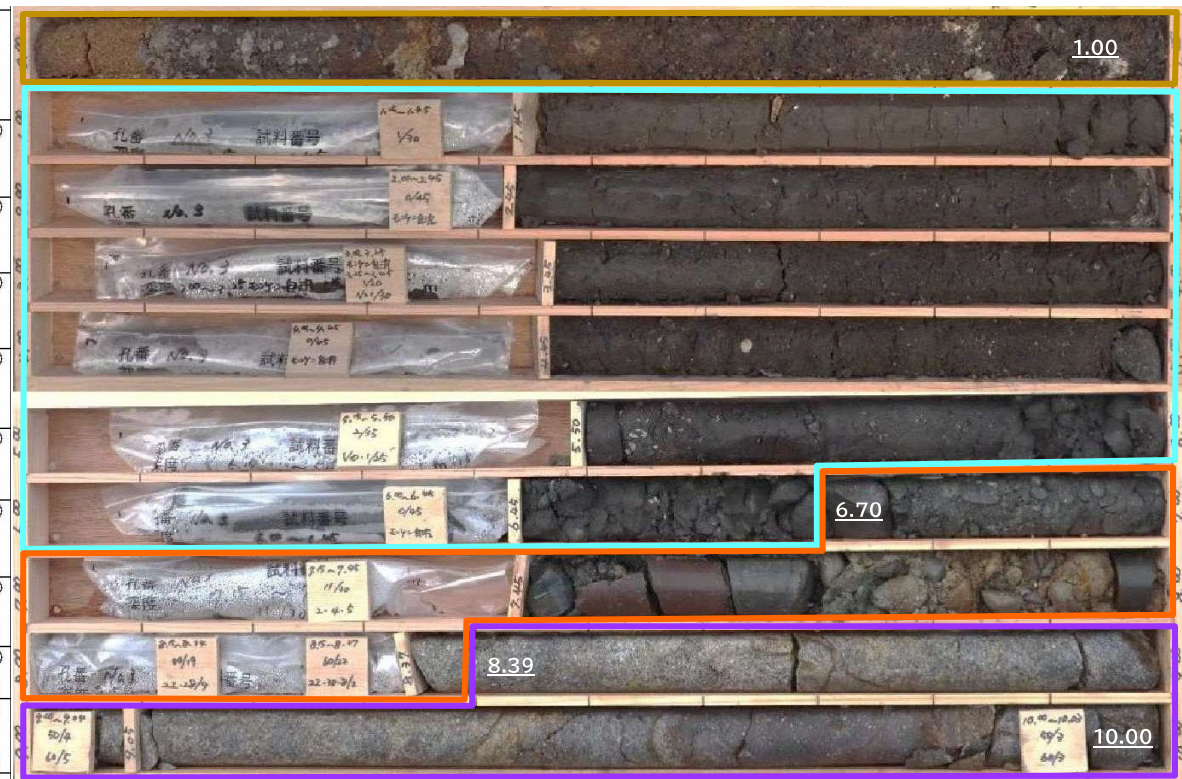
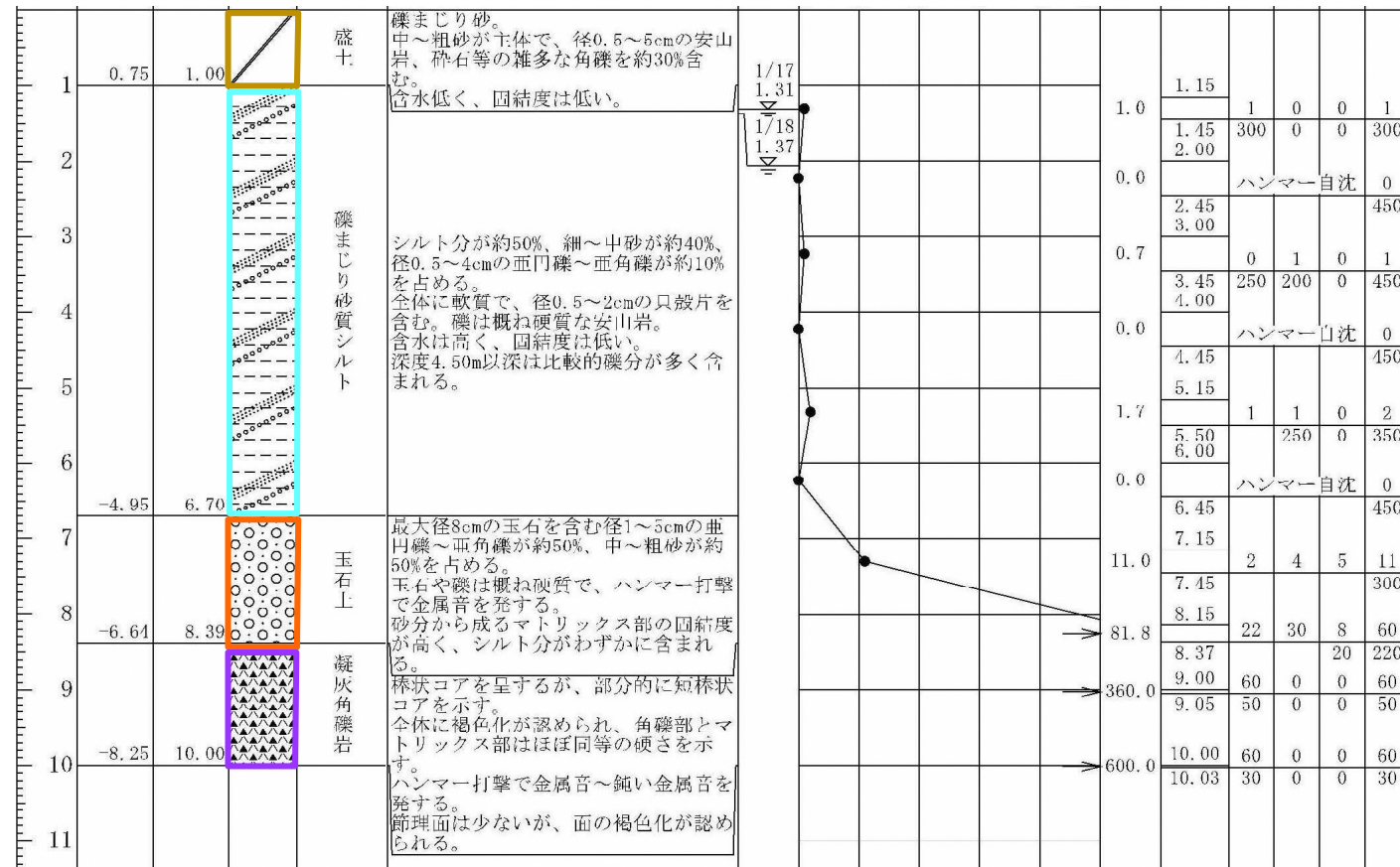
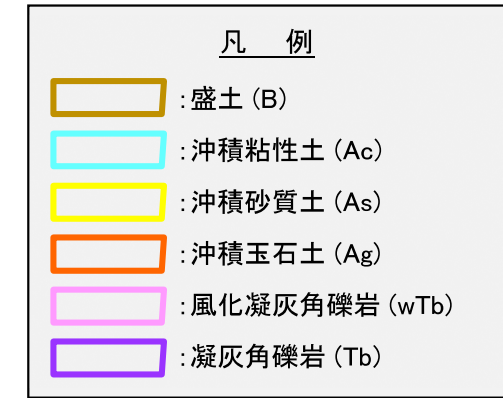
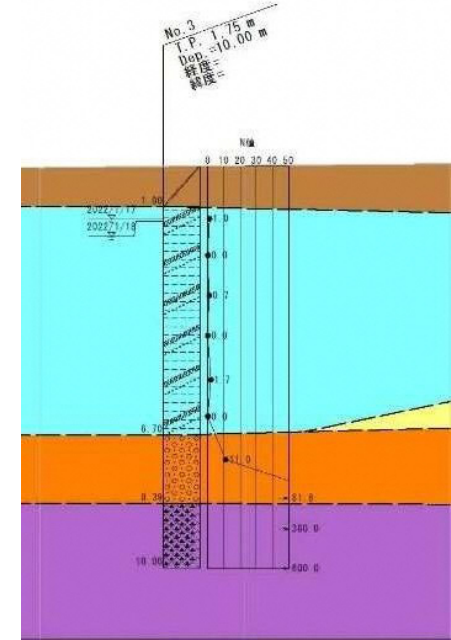
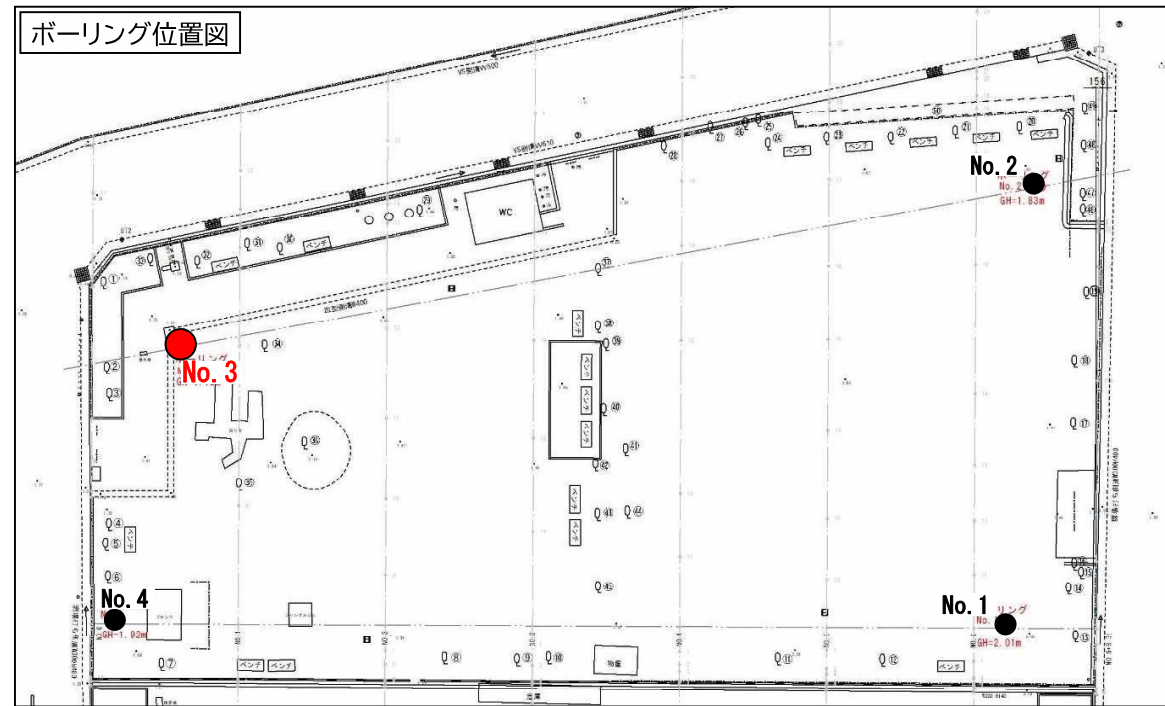
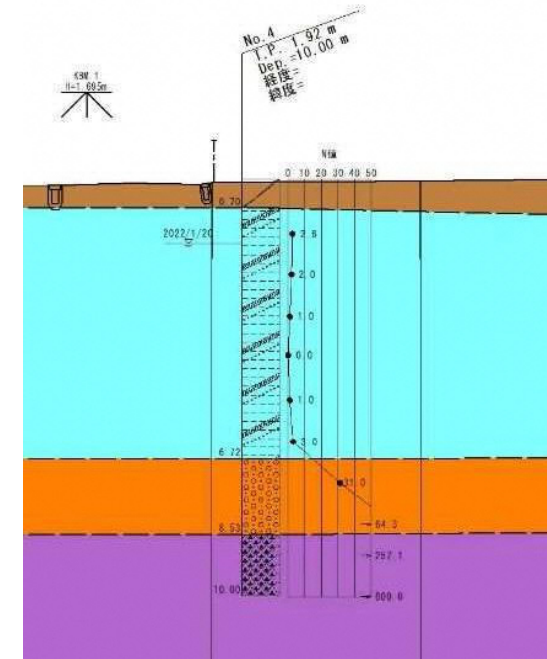
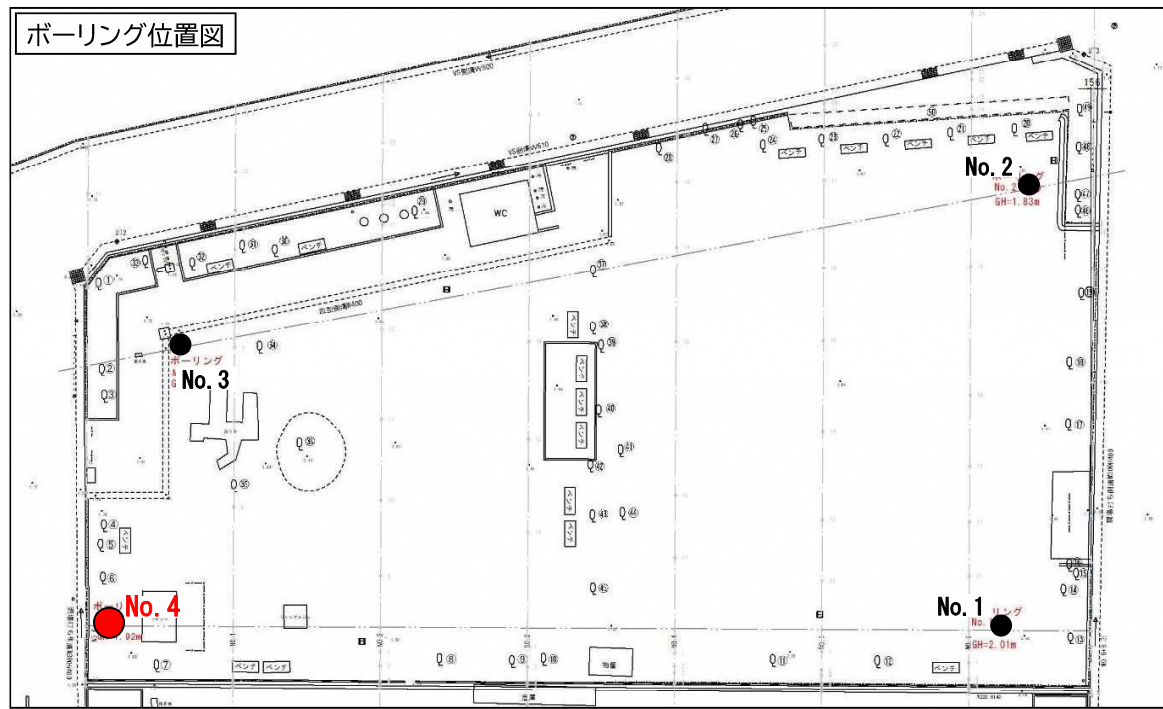


図 4-3-4 ボーリング柱状図～コア写真の対比 : No. 3



凡例

- : 盛土 (B)
- : 沖積粘性土 (Ac)
- : 沖積砂質土 (As)
- : 沖積玉石土 (Ag)
- : 風化凝灰角礫岩 (wTb)
- : 凝灰角礫岩 (Tb)

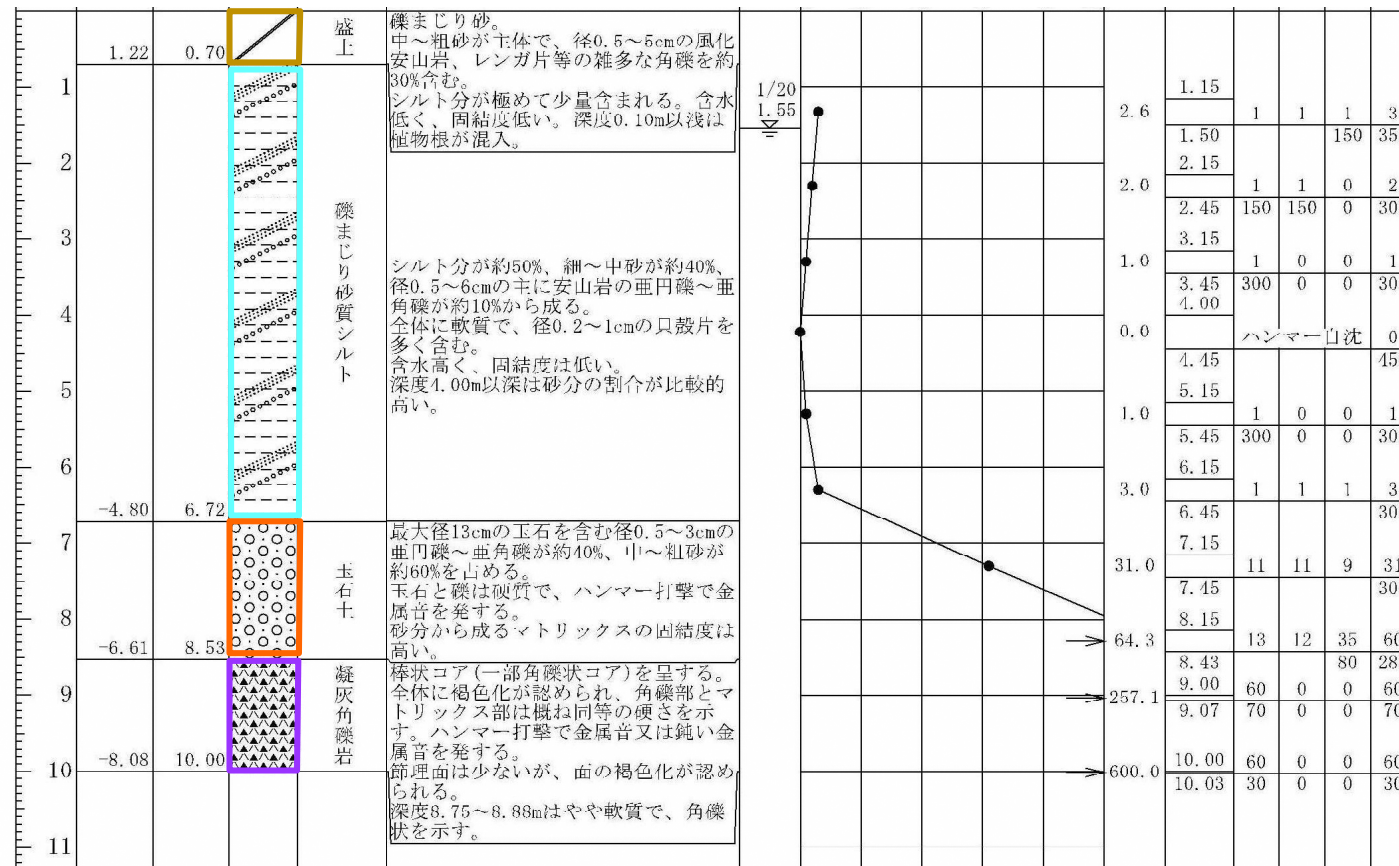


図4-3-5 ボーリング柱状図～コア写真の対比 : No. 4